

教科（科目）	地理歴史（地理B）	単位数	4単位	学年（系）	2学年（文系）
使用教科書	帝国書院『新詳地理B』 帝国書院『新詳高等地図』				
副教材等	第一学習社『最新地理図表 GEO 五訂版』 東京法令出版『ニューコンパスノート地理』				

1 学習目標

現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

- ・毎時の授業のはじめに学習の狙いを示すことで、積極的に学習活動に臨む姿勢を養う。
- ・現状や問題点を論理的に思考する「地理的思考力」が身につくことに重点を置いた指導を行う。

3 学習計画（1単位時間：55分）

月	単元名	教材	学習活動	時間	評価方法
4	第Ⅰ部 さまざまな地図と地理的技能 1章 地理情報と地図 1 地図の発達 2 地図の種類とその利用 3 地理情報の地図化 2章 地図の活用と地域調査	教科書 副教材 プリント	○様々な時代や種類の地図を読図する。 ○地球の特徴をとらえ、時差の求め方を理解。 ○地理情報を統計地図化し、理解を深める。 ○地域調査における地図活用法を理解する。 ☆地図や地理情報は、その地理的技能を身につけ、その有用性に気づく。	2 2 2 2	定期考査 小テスト 授業の取組
5	第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 1章 自然環境 1 世界の地形 2 世界の気候		○地形の分布や成因を考察し、災害や恩恵など人間生活とのかかわりを考察する。 ○気候の成り立ちを考察し、それぞれの気候区の特徴と人間生活への影響を考察する。	5 8	
6	☆1 学期中間考査 3 日本の自然の特徴と人々の生活		○日本の地形・気候・災害の特徴を理解する。	1 2	
7	4 環境問題 2章 資源と産業 1 産業の発達と変化 2 世界の農林水産業 ☆1 学期期末考査 3 食料問題 4 世界のエネルギー・鉱産資源 5 資源・エネルギー問題		○環境問題を大観し、特徴や対策を考察する。 ○産業の発達と変化を理解する。 ○農林水産業の現状や課題を考察する。 ○途上国、先進国の事例を考察する。 ○資源の利用と分布を考察する。 ○資源・エネルギーの問題を考察する。	5 1 6 1 2 3 3	
8	6 世界の工業	教科書 副教材 プリント	○工業の発達や立地、工業地域を考察する。	6	定期考査
9	7 第3次産業		○この産業の発展と観光業の特色を考察する。	2	小テスト
	8 世界を結ぶ交通・通信		○交通・通信の一体化や地域差を理解する。	2	授業の取組
	9 現代世界の貿易と経済圏 ☆2 学期中間考査		○貿易や経済の現状と課題を考察する。	2 1	
10	3章 人口、村落・都市 1 世界の人口 2 人口問題 3 村落と都市 4 都市・居住問題		○世界人口の分布や特色を理解する。 ○途上国・先進国の人口問題を考察する。 ○立地や発達、機能を考察する。 ○途上国・先進国の事例や解決策を考察する。	2 3 4 4	
11	4章 生活文化、民族・宗教 1 世界の衣食住 2 民族と宗教 3 現代世界の国家 4 民族・領土問題		○衣食住の分布・地域的差異と世界的な画一化について考察する。 ○民族と言語、宗教の分布や特徴、生活とのかかわりについて考察する。 ○国境や領域の決まりやさまざまな国家の分類について考察する。 ○民族・領土問題を大観し、各地の民族の共生についての課題を考察する。	3 3 2 4	
	第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分 1 地域区分とは何か		○地域概念や地域区分の目的・意義を理解	1	

	☆2学期期末考査		し、有用性に気づく。		1	
12	2章 現代世界の諸地域 1 地誌の考察方法 2 東アジア 3 東南アジア		○地誌のさまざまな考察方法を理解する。 ○各地域の自然・文化・農業・工業・資源等多様な項目を整理して考察する。		1 6 4	
1	4 南アジア 5 西アジアと中央アジア		○各地域の自然・文化・農業・工業・資源等多様な項目を整理して考察する。		3 3	定期考査 小テスト 授業の取組
	☆3学期中間考査				1	
2	6 北アフリカとサハラ以南のアフリカ 7 ヨーロッパ 8 ロシア				3 5 3	
3	☆3学期期末考査				1	
	9 アングロアメリカ 10 ラテンアメリカ 11 オセアニア		○日本の特徴を多面的・多角的に考察し、日本の抱える地理的諸課題の解決の方向性や将来の国土のあり方などを展望する。		5 3 3	
	3章 現代世界と日本				2	

計 128 時間 (55 分授業)

4 課題・提出物等

- ・適宜配布される白地図や作業プリントを課題として提出することを求める。
- ・月に数回、小テストを実施する。結果は評価の対象に加える。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
① 関心・意欲・態度	② 思考・判断・表現	③ 資料活用の技能	④ 知識・理解
現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとしている。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
以上の観点を踏まえ、 ①授業時の取り組み状況 ②定期考査 ③小テスト などから、総合的に評価します。			

6 担当者からの一言

「1 学習目標」「5 評価規準と評価方法」をよく読んでください。
「地理」という科目を通して、これからの社会を担っていく高校生として、ここに書かれているような能力や態度を習得してほしい。そして、新しい社会を生み出す創造力を身に付け、主体的に社会の形成に参画する人間になってほしいと願っています。

(担当：木村 秀彦)